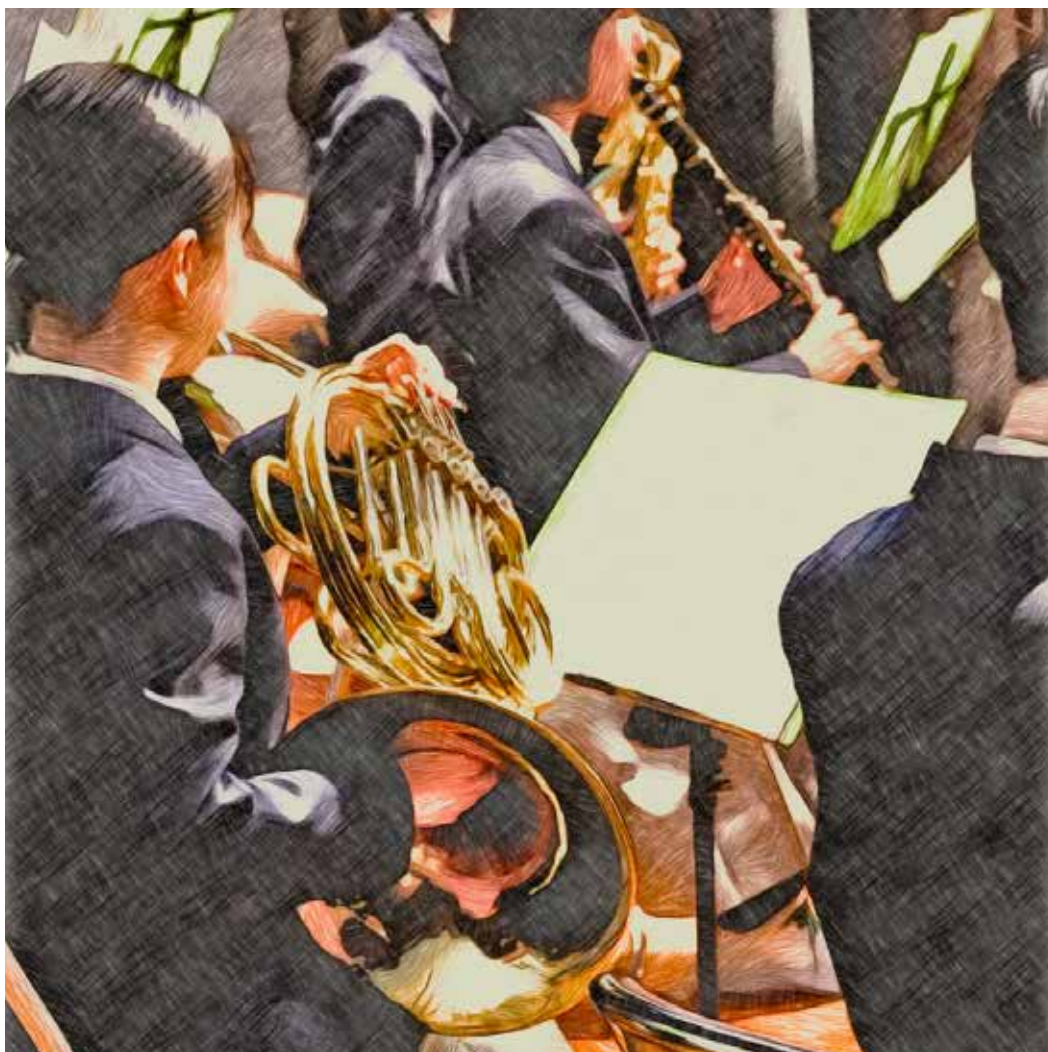


ふなはし 議会だより

INDEX

- 特集：村長 × 議長クロストーク・・・P 2
- 議員コラム：小杉知弘・・・P 7
- 一般質問・・・P 8
- 常任委員会・・・P14
- 3月定例会議案・・・P16
- 「議会だより」が新しく変わります！・・・P17
- 議会案内、読者アンケート、あとがき・・・P18

2023年4月8日には舟橋会館で「SAKURA meets the LIVE in ふなはし 2023」が開催された。11組の出演者によるパフォーマンスが披露され、村内外の観客で盛り上がった。



SAKURA meets the LIVE in ふなはし 2023

村長×議長 クロストーク

テーマ「温故知新」

古川委員長 本日はありがとうございます。

広報委員会として、2023年度の村長と議長とで、「温故知新」をテーマとしたクロストークを始めさせていただきます。

新進気鋭の渡辺村長と、ベテラン議員でもあります前原議長とで、これまでの村政を踏まえながら、これからの舟橋村について、フリーでトークをしていただければと思います。

舟橋村の、そのままであってほしい物

渡辺村長 舟橋村の空気感というか、都会過ぎず田舎過ぎず、適度な自然が残りつつも、生活にはそれほど大きな不便がないという、この環境はもう、これから先もずっと残ってほしいなというふうに、常日頃思っております。

私自身はそういったところの魅力を感じながら育ったので、そういった幼少期の記憶があったのでこの村に戻ってきたという経緯もあるので、私の自身の子供たちにも、そ

ういった体験をして、自分と同様にこの舟橋村がいい村だったなあというふうに感じてほしいと思います。

古川委員長 舟橋村の立地自体が、富山市のすぐ横ということで、街にも近いし、田園風景もあるということであり、そのよさを生かして、今後も、継続していきたいということかと思います。

長く村政に携わっておられます、前原議長はどのように思われますでしょうか。

前原議長 いま村長も言うておられたように、私もここで生まれ育って66年、ここで住んでいるわけですが、この舟橋村はずっと伝え残していきたいというふうに思っています。というのも、これまでに何回か合併の危機がありまして、それもこの舟橋村が乗り越えてきて、単独村政でやってきてるわけですが、これまで同様にこのまま舟橋村として、残ってほしいなというふうに思っています。

また、村長も言うておられたけどその立山連峰を臨む緑豊かな舟橋村は、すばらしい所だというふうに思いますし、子供たちがここに生まれて楽しかった、そして、舟橋村に家を建て、また子供が出来て、楽しかったことを子供に伝えていただくと。そんな感じの、村でいて欲しいと思います。

古川委員長 合併の問題があった当時は、何か町に憧れみたいなものがあった、合併しても良いじゃないかという意見も多くありましたが、しかし今は、村の良さをちゃんと守ってくれた方々のおかげで、いまの舟橋村があるんだと私も感じています。

舟橋村で、増やしていきたい物

渡辺村長 これから増えてほしいことは、従来からの地区内だけのつながりではなく、地区という枠組みを超えた、舟橋村全域の住民間のつながりです。

一方、物の部分でいうと、舟橋村の住みよい環境を崩してまで、あまり過剰に増えることが決まっていとも思っ



舟橋村長 **渡辺 光**

令和4年11月27日 舟橋村長就任
元富山青年会議所理事長

いません。むしろ、この舟橋村が富山市のように、すごい建物や、商業施設、遊ぶ場所が増えて差別化が出来なくなってしまったときに、本当に舟橋村の独自性が薄まるんじゃないかなというふうに思っています。少し足りないかなぐらいが1番、幸せを感じやすいのかなと思っています。

住民間のつながりは、本当にこれから、どんどん増やしていくために、行政としても後押しできるように取り組んでいきたいと思っています。

古川委員長 地区を越えたコミュニティの強化という事ですが、何か具体的な思いというか、こんなふうにやっていきたいなっていうのはありますか。

渡辺村長 例えば村民運動会で、地区をもうちょっと分けて団編成をするとか、あとは自治会っていう組織だけでなく、住民有志で村民の皆さん向けに何かこういった事をやりたいですよっていうときに、村として何かお手伝いお助けできるような事を進めたいなあというふうに思っています。

古川委員長 それでは続きまして、新しい視点のお話が村長からもありましたが、前原議長は今後、例えば、増やしていきたい事や、物があれば、教えていただきたいなと思っています。

前原議長 私も策定期間には携わっていましたが、平成19年の11月に制定されました舟橋村村民憲章でもいろいろ言われていますが、「自然と遊べる豊かな緑を育てましょう」というようなこともありますし、「一人一人が輝くように自分の力を活かしましょう」「世代を超えた優しい暮らしをつくりましょう」「小さな、ふれあいを大切に、大きなふれあいに広げましょう」「温かい心が育む笑顔を守りましょう」…とされていますが、そういうような物が、これから少しずつ増えていったほしいなと思っています。

古川委員長 村民憲章のお話ですが、それを実現するに当たって、具体的なビジョンやイメージなどがあれば、お聞かせください。

前原議長 この舟橋村を残していくためには、一人一人が舟橋村の環境づくりに一生懸命に取り組んだり、みんなで助け合うような気持ちを少しずつ育てていってもらったりしていただければ、舟橋村も、安泰じゃないかなというような気がします。

古川委員長 どちらの御意見も、舟橋村の良さを活かすた



舟橋村議会議長 前原 英石

平成15年4月30日より舟橋村議会議員。現在6期目。
平成25年6月14日から平成27年4月29日まで議長を務めたほか、副議長、総務教育常任委員会委員長、産業厚生常任委員会委員長を歴任。

めにコミュニティを強化していった住民自ら個々で考えていく、そういう意識を醸成していくっていうことが大事なのかなと伺わせていただきました。

舟橋村で、減らしていくべき物

前原議長 二酸化炭素の削減、カーボンニュートラルとか、地球温暖化とかいろいろ言われています。まず自分の住んでいる所のことを考えたとき、舟橋村だけではどうにもなりません。私自身も2030年という言葉聞いたときに、大変危機感を感じています。舟橋村からそういうものを発信していきながら、舟橋村としても、二酸化炭素を減らすのに、関心を持ちながら進めていっていただきたいというふうに思いました。

あと自分自身に置き換えると、体重と記憶力低下と、最近飲んでいる薬は減らしたいなと思っています（笑）

古川委員長 二酸化炭素の削減となると、世界規模のお話になってくるのかなと思いますが、例えばこうしていけば、村として何か取り組んでいけるんじゃないかと、何かありますか？

前原議長 今現在村のほうでも、農業のほうとかいろんなところで取り組んでおられるという話を聞いています。何

か具体的に、自分はどのようなことで取り組んでいくか？と考えてみると、まずゴミを少しでも出さない、プラスチックゴミを出さない、そういうようなことから少しずつ始めていきながら、これからもっと勉強して、例えば村議会が先頭となって何かを発信していけばいいなというふうに思います。

古川委員長 議会でもペーパーレス化も進んできたということで、ごみを削減しつつ、いろいろ村としてできることもあるのかなと思います。

それでは今の意見を受けて、渡辺村長はどのように思っておられますか？

渡辺村長 前原議長には、まだまだ頑張ってくださいと思いますので、体重と薬のほうは早急に減らしていただけるよう、お願いしたいところではあります（笑）

僕の考える、減ってほしいものというと、まず、今舟橋村が抱える課題や問題が、幾つかあったと思います。

喫緊の問題でいうと、農業の継承者問題は、本当にもう目の前に来ている問題だと思っています。この舟橋村の農業の未来の道筋を、行政としても、応援したいと思っています。

あとは、昨年からあった待機児童問題、もう令和5年度は一旦ない状況を迎えることが出来てはいますが、これがまた発生しないよう、今後も減らし続けようと思っています。

さらにもう一つは、昨年いろいろあった問題を、今もまだまだあるのではないかという目線を持ちながら、今後ゼロを目指して、住みやすいより良い村にしていきたいなというふうに思っています。

古川委員長 いろいろな問題という中には、当然ながら脚光を浴びましたパワハラ問題も関わってくると思うんですけども、その点については？

渡辺村長 多くの方は役場の雰囲気が変わったねというふうに言っているのは、私としても非常に嬉しく思っております。

現在コンサルの方にも入っていただいて、ハラスメントに対する皆さんの意識を高めていっています。そうすると、あれもこれもハラスメントじゃないか、というような状態になるそうです。今現在、舟橋村の役場内は、そういった状態になっていると思ひまして、振り切れたものが徐々に正常なラインになって初めて、ハラスメントが完全にない状態になるそうです。そういう意味で、いまはまだ途中の状態なのかなというふうに思っています。

ただ、私自身もなるべく、職員の皆さんと、引き続き面談も繰り返しながら、なかなか発信しにくいような思いと

か、気持ちを酌み取る努力は継続して、正常化に向けての最短になるよう取り組んでいきたいと思っています。

議会への要望

渡辺村長 今、議会議員の皆様に対しては、非常にいい関係であると感じています。馴れ合いではなく、村民の皆さんの声を議員の皆さんに拾い上げて頂き、行政サイドにも、お伝えしていただける、それを受けて、自分として出来る事、出来ない事を取捨選択し、ジャッジし議員の皆さんにも説明をしていくそのような関係が、正しい関係性なのではないかと思っています。

要望という点に関しては、今後の議員の成り手を発掘していくというか、住民の皆さんに興味を持っていただいて「議員やりたいよ」っていう方を増やしていく為、次の成り手をどのように発掘し舟橋村をより良くして行きたいといった思いが有ります。

古川委員長 それについては、前原議長にもお伺いしますが、議員としても後継者について考えていくべきという問題について、議長から何かお考えなどありますか。

前原議長 その件に関しましては、今回、議会で小杉議員のほうから、議員提出議案として議員の育児休暇、産休、傷病、介護などに対し提案してもらい、子育て世代の人でも議員になりやすい環境づくりの一つとして、若手議員の視点から提案をしてくれました。同じように議員の成り手不足に関しては、全国的にも言われています。給与の問題とか、兼業を認めるなど、少しずつ、議員になりやすい環境にはなりつつあります。でもそれだけで完全な改善策ではないと思います。これからも試行錯誤しながら、1人でも多くの人に関心を持って貰える様な議論を重ねたいと考えます。

古川委員長 我々広報特別委員会としましても、議会に関心を持っていただけるような、広報活動をしていきたいと思っております。

引き続きまして前原議長のほうから、今後、議会を、こんなふうに変えていきたいのかあれば聞かせたいと思います。

前原議長 議会の改革につきまして私は以前から言っていますが、まず、議員個々の資質をもっと向上していかなくならないし、議会に関する知識をもっと深めなければならないと思います。

例えば、住民との話合いの中でも、正しく意見交換がで



きる、はいわかりましたって戻ってくるんじゃないくて、しっかりと説明できる知識をもち住民と接するようになりたいと思います。

そのような事の繰り返しが資質の向上にも繋がりますし、先程パワハラの話も出ましたが、パワハラについても、しっかりと他の事例など勉強し議会としての規則で定めていく必要性も感じます。

古川委員長 勉強の機会を、今後も増やしていくということですかね。

行政への要望

前原議長 村長就任の時からいろいろとお話をさせて頂いていますが、まず、村長には外へ出ていろんな人と話をしてくださいよと言っています。

幅広い世代の住民と目を見て話をしてください。タウンミーティングの話もありますが、タウンミーティングですと、各地区に行って1時間程度の話し合い、あっても1時間半ぐらいだと思います。

それも大事ですが、村長が外に出て多くの人と話をする機会を増やす、それを村政にも反映してほしいと思います。

そういう会話の中で、例えば出来ないものだったら、今は出来ないけれども、今後、そういうことに対しても取り組んでいきたいとか、はいはい、と受けてくるんじゃないくて、出来るもの出来ないもの、今すぐできるもの、しばらく待ってもらうものというような形で、きちっと説明していけば、その場その場で住民の人の理解が得られると思い

ます。現在、村長はいろんな所に出向いておられます。本当にフットワークの軽い村長だと感じています。

また、トップには判断力・決断力が求められます。その辺に関しましては的確に判断し迅速な決断という事にも心掛けてもらいたいです、わかつとるわいと言われるかもしれませんが、私はそういうところに期待をします。あとは、私にも通じることですが、自分の言った言葉に責任を持つと言う事、それがなければ住民からの信頼は得られないと思うのでその辺について期待します。

古川委員長 行政側になる役場に対しての何か御意見はありますか。

前原議長 行政側に対し一番思うのは、皆さん夢や希望を持って入ってきておられたと思いますが、結果的に、それがいつの間にか忘れ去られていっているような気がするもので、もう一度原点に戻って、例えば職員のほうから村長に対して、いろんな提案を出せるような、その体制づくりだとか、それを施策として反映していける行政であってほしいなというふうに思います。

古川委員長 では今ほどの、話を受けて、渡辺村長にどんなふうに関わりを変えていって、また自分を変えていったりしていこうかなあという思いを話していただきたいと思います。

渡辺村長 就任してから、職員さんと一対一で話をすると、議長が言われたとおり、皆さんいろんな思いがあって、こ

れをこうしたほうが本当は良いのではないかなって思っておられる職員さんは、意外と多いなと思いました。職員自身の所属する課の中で、そういった声を上げて、課の仲間の皆さんでそれいいね、やってみようよっていう、判断とジャッジができるようになれば、もっともっと素敵な役場になるのではないかなと強く感じています。

そして僕としてはそういう風土、そういう機運になるところを醸成できるような、縁の下を支えるような動きを、取っていきたいと思っています。

古川委員長 現在の組織のお話が出ましたが、せっかくですので、三つ目の課が新設されるということに関する思いがあればお話しただけないでしょうか。

渡辺村長 現在私が両課の運営を見ている中で、生活環境課の抱える業務の幅が、ちょっと広過ぎるなあと感じています。課長1人で全部把握するのも、なかなか現実的になわないのではないかなというふうに感じました。

これだけ小さな自治体なので、大きな自治体と比べて、判断してから実行実施までは素早くできると思いますので、今よりもっと速やかに、村民の皆さんの声を反映できるような組織として三課体制が良いのではないかなというふうに考えました。

ただその三課にするとときに、どの業務で分けるかというのを、今後、職員の皆さんと協議をしながら進めていく必要があるのかなというふうに思っております。

古川委員長 これは前原議長に興味本位で聞いてみるのですけど、今まではその課に対応して常任委員会が分かれていたと思うのですが、三課体制になったらどうなる展望なのでしょう。

前原議長 議員が12人にならなきゃダメかもしれません。

それは冗談として、議会としては、それぞれの課に対する質問もきちっとできるように対応していかなければならないかなというふうに思います。

舟橋村の役場自体も一つの役場と言われてるわけで、その中の課が二つでも、三つでも、その中のコミュニケーションさえしっかりとってってもらえればいいなというふうに思います。舟橋村の職員というのは1人の職員が幾つもの業務を持っておられて、私自身もこの職員の人は何と何を担当しているのかさえもわからない状況です。三課になれば、もう少しそういうものが見えやすくなってくるし、その職員にしても、その職務分担を均等に分けるような形になれば、自分のやるべきことというのも見えてくるなというふうに思います。

本日の感想と本年度の抱負

前原議長 今回こういうような企画、今日は村長と私とのトークですけれども、今後はいろいろな視点でのトークを企画していただければいいなというふうに思います。

また、本年度の抱負としては、頭の中ではすごいたくさんある抱負も、なかなかそれを現実化していくっていうのは難しい。その抱負を現実化していくためには、もっと自分自身の知識を上げていかないと、駄目だし、抱負の一つ一つを実現していくためには一生懸命に努力していかなければならないと思います。例えば、議会改革についても頭の中ではいろいろ改革について思うところがあります。議員の仕事は何なんだろうとか、条例に関わることとか、議員提出議案とか、そういうものについてもきちっとした話ができるような、議会づくりをしていきたいというところが今の一番の抱負かなと思います。

古川委員長 議長のストイックな部分が見えた回答かなというふうに思います。我々も議会として、一緒に、そういう資質の向上に努めていきたいと思いますので、私からもお願いをさせていただきたいと思います。

それでは続きまして渡辺村長のほうから、本日の感想と、あとは本年度の抱負について、お聞かせいただければと思います。

渡辺村長 本日は非常楽しくお話をさせていただけたかなと思います。議長も言われたんですけどこの対談が、例えば村長と議長のみならず、いろんな方の対談も僕は客観的に見てみたいなど。さらに、車座的な感じでやったり、お酒を飲み交わしながらというのも、またいいのかなと。こういった機会が、これからももっとあれば嬉しいなというふうに思いましたので、また今後ともよろしくお願いします。

本年度の抱負としては、私自身年度の頭から運営をするというのは初めてになるので、確実に決断判断をして進めなくてはいけないと思っております。

早ければいいというわけでももちろんないので、そういった点においては、本日のテーマ温故知新ということである中で、議長のように議員経験の長い方の知見も、お借りしながら、なるべく早く、確かな運営を心がけて、令和5年度は進めていきたいというふうに思っております。そういった点において、議員各位の皆様にも御協力をお願いしたいと思っております。

古川委員長 本日はそれぞれの視点からの、舟橋村についてのお話を聞かせていただき、大変よい機会になったかというふうに思っております。

本日はありがとうございました。

小杉知弘

Personal Column

Vol.01

議員一人ひとりの素顔に迫る。

Theme

進化

～昨日よりちょっと素敵な今日～



舟橋村の“Sagrada Família”をつくる

なにかを成し遂げたいと願い、努力する一方で、その思いが成就したときに一縷の淋しさを感じたことはないでしょうか？「恋愛は片想いの時が一番楽しい」なんて言ったりもしますね。

私は竹内の築 100 年の古民家に住んでいます。一部は工事業者さんにお金を払って綺麗にしてもらいましたが、それ以外の場所は、時間を見つけて、家族の手を借りながら工事を進めています。家全体を一度に綺麗に出来ない理由として資金の問題もありますが、日々進化させる事に楽しさを感じつつ、いつまでも完成させたくないという気持ちが心の中にあるような気がします。民泊が出来るようなゲストルームも作りたいし、蔵を活用したカフェスペース、田んぼが望めるお風呂も欲しい。

スペインには、完成まで 300 年近くかかると言われている、今も建設中の“Sagrada Família (サグラダ・ファミリア)”という教会があり、多くの観光客が訪れています。

村も古民家も自分自身も、いつか迎える完成を目指して、日々進化していきたくものです。



改修済みのリビング

こすぎ ともひろ

1982 年、愛知県生まれ。建築家。2 児の父親。小中高を富山市で過ごし、東京で就職。独立を機に 3 年前に舟橋村に移住。座右の銘は「為せば成る」。趣味はスポーツ全般で、ZERO コーチ、1998/1999 年国体 110mH 富山県代表。ウィンドサーフィンインカレ出場。2022 年 11 月舟橋村議会議員補欠選挙にて当選。現在 1 期目。



動画はこちら



森 弘秋 議員

Q1 子育てしたくなる村づくりを目指す村長は、どのように導くのか。

Q2 時代に求められる資質・能力を身につけるため小学生の夢の実現に向けて。

Q1. 村長の目指す子育てしたくなる村づくりとは？

村は、「子どもを産み育てやすいまちづくり」をキャッチフレーズとして、以来10数年間、子育て支援の更なる強化を図る。と銘打ち、人口は急激に増え、現在は、3,271人となり県内唯一の人口増を保っている。今後も人口増が見込まれ、子ども達の勉強する場所、遊び場等の整備が喫緊の課題である。村長は、公約として、「子育てと仕事を自由に選択できる村づくり」「プラスひとりの環境整備」を挙げておられる。もはや、役場の組織改革なくして前には進まない。と立て直しを訴え、再生と創生を取り上げ、創生は、新たなものをつくりあげると言う意味で、過去の慣習・慣例にとらわれないと言う意味ともとらえておられる。

生活環境課を、仮称「住民自治課及びこども支援課」に分割し、専門家を配置し対応すべきであると考えている。お母さん方が、舟橋村に来てよかったなと思っていただける役場・村になきゃいけないと考えますが如何に？

A1. 福祉行政サービス向上を目指し令和7年度に課を新設したい。

本村の人口動態については、2040年代をピークに最大3,600人になるとの試算があり、今後20年程度は緩やかな増加が進むと認識している。一方で村の公共施設は、既に学童保育施設に不足が見込まれるほか、水道水の確保については停止中のポンプ再稼働等の整備を視野に入れて検討を進めている。子育てしたくなる村づくりについては、役場組織改革とあわせて取組を進めたいと考えている。子どものみならず高齢者、その他福祉全般を取り扱う課を令和7年度に新設することで検討を進めていきたい。そうすることで、これまでよりさらに綿密なケアを行うことが可能になると考えている。令和6年度には学童保育施設の不足が見込まれているが、子供たちの勉強の場や遊び場の整備が喫緊の課題であると考えている。

Q2. 小学生の学習発表における看板の提案を活かそう！

学校教育法は、(前略) ボランティア活動など社会奉仕活動、自然体験活動その他の体験活動の充実に努めるものとする。村民憲章の前文にも「自然と遊べる豊かな緑を育てましょう。」と。小学生は、訴える。村民は、細川に遡上する鮭を知らない。宣伝用の「看板」を立て、100年後の舟橋村を夢見て！伝承をしていきたい！

A2. 具体的な提案を頂き次第、看板を設置。

昨年12月に実施した小学6年生学習発表会の内容は、議員さんの言われる「身近な自然環境とそこで起きている環境問題」を探究課題としたものだった。6年生が中学校へ進学した後も先生と生徒とでテーマを設定して発展させることができないか中学校と協議したい。提案いただいた看板の設置については、県の許可が必要となるため、具体的な提案を頂き次第、県との協議を進めたい。

Q1 学校給食の無償化について

Q2 地域医療について



田村 馨 議員

動画はこちら



Q1. 学校給食のさらなる充実を！

子どもにとってかけがえのない大切な学校給食。小学校・中学校とも給食費を無償化している自治体が254件に広がっている。子どもたちにとって学校給食は、同じものの味を共感しあったり自分の思いを伝えあったり、たくさん食べた達成感や、苦しい食材にもどうチャレンジしていくか、など、楽しい特別な時間であり、大事な学びの時間でもある。

人の一年間の食事回数は一日3食で計算すると1,095食、子どもたちにとってはそのうち、2割近くが学校給食。子どもの体の成長はもちろん、生きることに欠かせない食事の大きな役割を学校給食が担っている。毎日の給食の時間には、子どもたちの元気な姿と笑顔が広がっている様子がうかがえるが、子どもの成長に多大な影響を持つ学校給食は、教育環境整備の充実という点でも欠かせない課題の一つだと思う。村長の学校給食に対する思いと評価、望む方向について問う。

A1. 子ども達の成長を願い、充実した学校給食の運営を維持したい。

小中学校の給食に関しては、子ども達の健康保持・増進という目的はもちろん、自身においても様々な思い出もあり、学校生活の重要な一端を担っていると考えている。現在は、物価高騰や光熱水費高騰の状況下で、委託事業者にはギリギリの運営のもとご協力いただいている。今後は、地元の米や有機野菜を使用し、さらに充実した内容にしたいと考えているが、社会情勢や村の財政事情も勘案し、可能な時期をみて然るべき対応を取るよう検討を進める。

Q2. 地域医療機関の開業について、その後の進捗は？

舟橋村の医療環境については、唯一の診療所であり、地域医療の中核を担ってきた「舟橋クリニック」が2019年に閉院して以降、歯科医院の2件がある以外、無医村の状態が現在も続いている。

隣接する富山市や上市町に、かみいち総合病院や富山県立中央病院、富山赤十字病院などがあり、これらの医療機関とは地域医療での連携がなされているが、村内で身近に診療を受ける事が出来る診療所などはなく、村外まで移動して診療を受けているのが現状である。

そんな中、昨年より富山市内で医院を開業している医師が舟橋村で医院を開業し、訪問診療にも携わりたいとの話があり、これまでも議会で取り上げられている。直近では去年の9月定例会の一般質問において、当時議員だった良峯さんが医療機関の村内誘致の状況について質問されている。

そこで、開業医の村内への誘致について、どのような状況になっているのか改めて問う。

A2. 近隣医療機関への移動手段確保が重要。

昨年9月定例会の一般質問において、当時の古越村長が「建築事業者と医院の先生との間で建築物の基本図面を作成している段階。議会に対しては、12月か3月定例会で、ある程度方向性をお示しした上で、補助金等の具体的な提案ができる見込みである」旨を答弁されている。

この件については、自身が昨年末に医薬品卸売事業者や建設関係者から直接お話をうかがった。その当時は、概算工事費が示される一歩手前であったが、契約等を締結していないため、現在は進捗中断している状態と認識している。

昭和59年に施行された「舟橋村無医村解消のための助成金交付要綱」に定める範囲内で対応できるなら開業していたことは可能であると考え、自身の公約の一つとして、医療機会の充実を訴えてきた経緯もある。医院誘致よりも、近隣の病院等にスムーズに受診できる環境を整えたいと考えている。

Q1 インフルエンザ予防接種の費用助成対象者拡充について

Q2 地域力創造アドバイザー制度の活用について



動画はこちら



小杉 知弘 議員

Q1. インフルエンザ予防接種の費用助成の対象者に高校生を加える事に関して、村長の所見を問う。

現在はインフルエンザ予防接種の費用助成のこどもの対象者は、小学生、中学生であるが、県内複数の市町村で、高校生までのインフルエンザ予防接種の費用助成を行っている。周辺の市町村の状況からも、子育て支援の充実を掲げる本村にとって、インフルエンザ予防接種の費用助成の対象者に高校生を含むことも必須であると考えている。

A1. 高校3年生相当年齢まで対象者拡大を検討

令和4年8月時点で、高校3年生相当年齢までを対象としている自治体は県内で6市町。全国的に対象年齢を拡大する自治体は増加傾向にある。村内の高校生相当年齢の見込人数は令和5年度で117名。それ以降も120名前後で推移していく見込み。他市町同様に上限3千円を助成して全対象者が接種した場合、年間約30～40万円の財政負担が生じる。対象範囲拡大には予算措置が必要で、議会の理解を必要とするが、村としては新型コロナウイルス感染症との同時流行の防止や重症化リスクの低減等も踏まえ、高校3年生相当年齢まで対象範囲を拡大する方向で実施したい。

Q2. 地域活性化の取組において総務省が支援する、地域力創造アドバイザー制度の活用に関して、村長の所見を問う。

地域独自の魅力や価値の向上に取り組むことで、地域力を高めようとする市町村が、地域活性化の取組に関する知見やノウハウを有する外部専門家を招へいし、指導・助言を受けながら取組を行う場合の外部専門家に関する情報提供、及び招聘に必要な経費について総務省が支援を行ってくれる、地域力創造アドバイザー制度という制度がある。

村長の掲げる“光かがやく未来をえがくふなはし新時代”を実現する為には、村の予算、人材とも強化していく必要を感じる。本制度は年間560万円、最大3年間の補助を受けることができるといった内容である。是非活用してみてはどうか。

A2. ふるさと納税強化、企業版ふるさと納税導入により地域課題解決に取り組みたい。

地域力創造アドバイザーには、令和4年度時点で民間の方438名、自治体職員23名が登録されている。アドバイザーの取組内容は、「まち」の魅力維持・向上として、6次産業化や販路開拓等の「地域資源を活用した地域経済循環」、地域医療・地域交通等の「生活機能の維持」、「ひと」の流れ創出、「ひと」の育成として「関係人口創出・拡大」、「移住定住支援」「少子化対策」等がある。財源として、年間560万円を上限に3年間特別交付税措置されるが、本村としては、ふるさと納税の取組強化、企業版ふるさと納税の導入等で、寄付金額の増加だけでなく、ふるさと納税を活用した地域課題解決の取組について活用の検討を進めたいと考えている。

Q1 細川水門自動化について

Q2 国土強靱化地域計画を活かした インフラ整備の方向性について



動画はこちら



古川 元規 議員

Q1. 治水や防災の観点から細川水門自動化の実現を！

古海老江、竹鼻、海老江、仏生寺の4地区から要望のあった細川水門の自動化についても本年度予算に盛り込まれておりますが、一部を地区住民で負担することに、なかなか納得が得られておりません。

防災は村民全体に関わることで、最も望ましい形としては、村全体の問題と捉えて地区住民個人としての負担を0に近づけてほしいが、どうしてもそれが難しいということであれば、村としてその理解を深めるために何らかの活動をしてほしいと考えるが、当局の考えを問う。

A1. 地元負担は必要だが、負担の少ない事業の採択を受けており、ご理解いただきたい。

細川水門自動化については、土地改良施設維持管理適正化事業の防災減災機能等強化事業での事業採択が見込めることから令和5年度予算に計上した。本来、土地改良施設の維持管理は土地改良区等の施設管理者自らが行うべきものだが、公共的な役割がより大きくなっていることから、公的助成措置を講じている。これまでにおいても水門や用排水路等の施設の維持管理について、地元から村へ、活用できる補助制度の有無等についてお問い合わせをいただき、地元負担財源についてもよく協議された上で申請され、事業を実施していると認識している。本事業についても地元負担なく実施することは困難であるため、これまで村が事業主体となり関係機関と協議を重ねてきた。地元負担は伴うものの、補助事業として実施できる点をご理解いただきたい。

Q2. 国土強靱化地域計画の公表を！

令和4年3月、舟橋村においても国土強靱化地域計画（地域強靱化計画）が策定されました。日本一小さな舟橋村においても、しっかりと未来を見据えてこのような計画が成されたことは誇るべきことであり、ぜひ公表をしていただきたいと思います。

これにより、ライフラインに関することはもちろんのこと、道路や箱物施設、電線の地中化などのインフラ整備についても、すべて計画に基づいた高い視点で戦略的に計画がされることが期待されるが、本計画を踏まえた本村の強靱化の方向性について村長の考えを問う。

A2. 村ホームページにおいて早急に公表

舟橋村国土強靱化地域計画は、既に策定済であるが、現在まで未公表であるため、村ホームページにおいて早急に公表する。本計画を踏まえた方向性については、各インフラによって方向性も異なってくるため一概には言えないが、村道や公共施設ごとに順次然るべき事業を実施し、万が一の際にも行政機能を維持し、村民の生命・財産を守る村政運営を継続していきたい。

Q1 保育所入所児童数の把握について

Q2 高齢者支援について



動画はこちら



加藤 智恵子 議員

Q1. 保育所における今後の待機児童発生の可能性について問う。

保育所や転入者増加に関する次の点について説明をもとめる。

- ・保育所2園の令和5年度の入所状況と年度途中も含めた待機児童発生の可能性について。
- ・新規宅地が造成され未就学児の転入も予測されるが、保育所に全員入所できるのか。
- ・村内在住の方で、転入された方より入所が後回しになるのではないかと不安に思う方もいるが、保育所の入所基準の説明を求める。
- ・昨年4月から使用しなくなった旧すきっぷ園園舎の現状と今後の使用予定は？

A1. 令和4年度中の出生児については全て入所可能

- ・令和5年度の各保育所の定員は「ふなはしこども園」140名。「ふなはしすきっぷ園」70名。年度途中入所予定者についても把握しており、途中入所希望の対応は可能と考えている。
- ・今後の宅地造成により転入増加が想定されるが、事前の情報把握に努め、希望者全員が入所できるよう努める。ただし、0歳児、1歳児に入所希望が集中した場合、令和6年度での入所についてご協力を求める可能性もあることをご理解いただきたい。
- ・令和3年度に小規模保育で使用していた、旧すきっぷ園のスペースについては、子育て支援施設として週1回、保育所入所前の児童と保護者を対象とした親子サークルを開催するスペースとして活用する予定である。

Q2. 2025年、2040年を見据えた高齢者支援について問う。

2025年に団塊世代の全ての方が75歳以上の後期高齢者となり、身体機能（視力、聴力、体力など）や認知機能の衰えた高齢者が増加すると言われていることを踏まえ、以下2点について問う。

- ・村民の足となる自動運転バスの村内での具体的な利用法について
- ・高齢者にとって、舟橋駅南で駐車し踏切や地下道を通して駅北の改札口に行くことは転倒転落の危険性もあり負担が大きい。そのため、駐車場のある駅南に出入口を、2番ホームにスロープの設置を求める。

A2. 全世代対象となる自動運転バス導入に向け調査を実施

自動運転バス導入については、今の段階では具体的な費用や富山県内での走行実績がないことから詳らかにしていない状況である。近い将来、富山市が実証実験を行う報道があるほか、既に導入済の先進地域への視察等を通じて、令和5年度は情報収集に注力し、調査を進める過程で広く住民へも情報発信したい。

- ・舟橋駅南側の出入口設置と2番線ホームに通じる外付スロープ設置については、過去に竹内自治会より地元要望があり、富山地方鉄道と協議したが、整備に要する費用や運用管理面から実施は難しいとの判断に至った経緯がある。その点も踏まえ再度協議したが、多額の事業費が見込まれ、地元として、仮に村がいづらか負担するとしても、比較的整備が行き届いた越中舟橋駅において新たな設備投資は難しいとの回答であった。

Q1 学童保育について

Q2 物価高騰下における村民生活の支援について



動画はこちら



竹島 貴行 議員

Q1. 村が行うサービスは、利用者である村民の希望に沿うものでなければサービスとは言えない。

議会は令和3年12月議会で村が村民の要望に沿った学童保育を行うことを決議しました。村は新年度予算で学童保育施設新築事業に1億2,089万円を計上しましたが、学童保育という看板を掲げるだけでなく、公費を使って事業運営する以上、事業に対する基本的な方向性が利用者に受け入れられるものとなるよう学童保育のコンセプトを確立すべきである。村長が学童保育について、どう考えるのか見解を質しました。

A1. 子ども子育て会議によりニーズを把握し、行政サービスを展開する。

将来的に出生数が減少に転じても、放課後児童クラブは必要不可欠である。現在、学童保育は「あおぞらクラブすきっぷ園」が保育所の空き部屋を利用して運営しているが、令和6年度になると全年齢の園児が在園することから空き部屋がなくなるため、新しい学童保育室の建設が必要となったもの。保育施設と学童保育施設が離れていると、保護者送迎の利便性や職員間連携の観点から負担増となることが懸念されるため、同一敷地内で建設したい。

今後は、新しく建設する学童保育室の運営を含め、特色ある保育を引き出すため民設民営を視野に含めて検討したい。

Q2. 生活に困窮される村民に、村として支援策を検討すべき。

エネルギーの高騰で食料品や生活用品値上げが相次ぎ、更に4月からの電気料金値上げが物価高騰につながり、村民生活への影響を心配します。

国が対策を具体化する迄に時間がかかると考えますので、村民の生活を直視しながら村として何が出来るか、生活支援策のメニューを検討しておくことも必要と考え、村長に見解を質しました。

A2. 村財政のみでは負担が重く、国の動向を注視し支援策を講じる。

村ではこれまで、国から交付された新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、小中学校の給食費や水道基本料金の補助、高齢者見守り事業費等に活用してきた。いずれの事業も、国からの交付金が確定した後に補正予算で対応していることから、現時点で予算配分が不明である令和5年度については、事業費計上していない。これらの事業を継続して実施する場合、村単独では財政負担が大きいことから、国の動向に注視し、今後コロナ交付金もしくはそれに代わる交付金等が配分された場合には、村民生活支援に予算を充当していきたいと考えている。また、令和5年度においては、村単独で住民税非課税世帯への水道基本料金の減免を検討している。



総務教育常任委員会

村債発行により実施する事業は？

Q 令和4年度と比較して令和5年度の村債が9,550万円増加している要因は。また、村債発行による主たる事業は。
(森)

A 令和5年度予算において特に大きいのは、舟橋会館空調機器と図書館外壁の長寿命化改修工事費に充当する「公共施設等適正管理推進事業債」3,200万円と学童施設新築工事費に充当する「社会福祉施設整備事業債」6,570万円。本村は、そもそも財政規模が小さいため規模の大きな公共事業を実施する年度においては、前年度と比較した場合に増額幅が目立つ場合があるが、交付税措置もあり、財政運営上特に支障ないものと考えている。

安全運転装置補助制度の活用は進んでいるのか？

Q 安全運転装置補助制度の、これまでの利用実績は。
(田村)

A 令和2年度から実施している事業。ペダル踏み間違い時加速抑制装置（補助額上限1万円）は、これまで実績なし。ドライブレコーダー装置（補助額上限5千円）は、これまで14件。補助制度については、広報紙折込チラシで周知しているほか、交通安全協会や老人クラブの協力を得て、チラシを配布する等で周知している。今後も高齢者を中心に組織された団体等の協力を得て、周知徹底を図る。

「サードプレイス事業」どのような事業を計画？

Q 令和5年度予算に計上されている「サードプレイス」事業において、どのようなシステムや備品を導入し、事業を実施する予定か。
(小杉)

A 令和4年度に実施した研修において職員から提案された事業の一つを予算措置し、事業化したもの。パブリックビューイング開催を核とした、コミュニティ醸成と舟橋会館利活用促進を主たる目的としている。有料チャンネルと法人契約を締結し、ホールにプロジェクター・スクリーン・スピーカー等を設置してスポーツ・映画・音楽等の上映会を開催するもの。その際、お菓子やパン等軽食販売の実施可否についてもあわせて検討を進めたい。また、令和5年度より運営を開始する「みんなのあそびば」事業もサードプレイスの一つとして位置付けており、様々な年代の住民等の地域交流拠点としての利活用が進むよう、事業を展開していく。

令和4年度予算における地方交付税の減額補正について詳細な説明を。

Q 今定例会において、令和4年度地方交付税4,130万3千円が減額補正されているが、その要因は。財源となるものが大幅に減額されたことになるが、歳出においてどのような影響が出たか。地方交付税の算定基準の提示とともに詳細な説明を求める。
(前原)

A すきっぷ園の児童数計上に錯誤があったもの。令和3年度すきっぷ園は小規模保育事業施設であったが、令和4年度より保育所となった。地方交付税交付金の算定には様々な基準があり、令和4年度予算作成の際は、本事情を見込んで保育所児童数増加分を計上し、当初予算として8億3千万円の歳入を見込んでいた。しかし、令和4年度の地方交付税交付金算定数値報告の際、すきっぷ園児童数増加分を計上しなかったため、それに伴う交付金額が当初予算に計上した見込額を下回ることとなり、今回減額補正せざるを得ないこととなった。令和6年度の交付税検査において、本件については錯誤として報告することにより、今回減額補正した部分については令和7年度に交付される予定である。また、歳入減額補正分は、前年度繰越金等で補える範囲であり、各種事業費には影響しないものと認識している。

村民の幸福度向上を!



産業厚生常任委員会

村道古海老江銚ノ木線道路改良工事について

詳細な説明を。

Q

村道古海老江銚ノ木線道路改良事業については、令和5年度当初予算に工事費652万4千円が計上されている。本事業費は9月、12月にも補正予算要求されてきたが、完成形としてどのような道路を計画しているのか。
(前原・竹島・古川)

A

9月補正で測量設計業務委託料（1,044万7千円）が議決され、同月入札により契約を締結。道路延長120mの測量設計業務に着手した。交差点形状を考慮し、村としては当該村道北側の一般住宅地を一部買収して拡幅させていただきたく、12月補正で物件調査補償金算定業務（299万2千円）を予算要求したが凍結となった。本年2月に議会と再度協議させていただいたが理解を得られず、その旨を地元の東芦原自治会長及び地権者に回答した。宅地造成が進めば、子ども達の転入が想定されるため、今後は関係機関と交差点や横断歩道設置について協議を進めたい。

自動運転バス導入に向けて、村長の目指すところは?

Q

令和5年度当初予算において、村長の公約の一つである「自動運転バス」の導入調査事業費が計上されている。この事業の目指すところについて、村長の見解を問う。(竹島)

A

公共交通インフラが整った地域は持続可能な地域であると考えており、その手段として自動運転バス導入に向けた調査費を令和5年度予算に計上した。全国的に進む高齢化社会への対応や交通弱者支援、現に舟橋村の課題となっている、通院等における移動手段確保等の面から、舟橋村が今後も「選ばれるまち」であり続けるために効果的なものと考えているが、まだ情報が少ないため、新年度において調査検討を進めたい。

令和5年度に実施する地方創生事業は?

Q

- ・農産物関連事業が複数あるが、幅広く周知し、多くの団体や個人を取り込んでほしい。
- ・スマホ教室の事業成果と今後の見通しは。
- ・みんなの遊び場運営事業は、具体的にどのような運営を行う予定か。(古川)

A

- ・特に農業分野において各種団体が同様の事業を行っている点については、村としても認識しており、企画段階において各種団体の意見擦り合わせの場を設けることも検討していきたい。
- ・令和4年度に実施したスマホ教室に参加いただいたのは延人数105名。参加者からは「少人数制で受講しやすかった。」等の意見を頂き、一定の成果はあったと認識している。スマホ教室を開催するに当たり、村としてのゴール地点は決めていないが、参加される方それぞれが目標や目的を達成していただけるよう取組を続けたい。
- ・令和4年度より舟橋会館で実施してきた、習い事の見守り・子どもの遊び場事業は今後も継続。令和5年度は一般社団法人さくらんぼくらぶに運営を委託し、駄菓子屋を開きながら子ども達の見守りや遊びの提供を行う「みんなのあそび場」とする。利用対象は小学生に限定せず、様々な世代が交流できるサードプレイスの場所として定着することを目的としている。

舟橋村の給水人口は?

Q

現在の給水人口と今後の見通しについて問う。(加藤)

A

計画給水人口3,600人。現在の住民基本台帳人口と比較すると、若干の余裕はあるが、今後の人口増加に備えた対応も必要と考えている。第二水源において現在休止している水源の調査を令和5年度に実施し、その給水能力の調査を実施したい。結果次第では、県との協議が必要であることは前提となるが、計画給水人口の増員も可能となり、それに備えた準備を整えたい。

農業分野における事業者への助成制度は?

Q

令和4年度予算において、農業経営基盤強化資金利子助成金50万円が増額補正されているが、当該事業者は既に稼働している。助成決定した時期及び助成期間は。また、農業を取り巻く環境は今後一層厳しくなると考えられるが、今後において新たな助成制度の創設等は考えているか。
(前原)

A

当該資金の利子補給に係る村負担額は毎年50万円前後となっているが、村で事業を展開頂くことで、当該利子補給負担金額を超える法人税や固定資産税を既に納税頂いている。農業者に対する助成制度は、一定の条件を満たした農業機械の購入に対する助成制度を設けており、新たな助成制度については今のところ考えていない。

3月定例会に提出された議案は以下のとおりです。

採決結果 ○：賛成、×：反対

議案	内 容 説 明	小杉	古川	加藤	田村	森	竹島
①	令和5年度一般会計予算19億5,663万1千円（前年度比9.7%増）が計上されました。主な予算は、みんなのあそびば運営事業費268万5千円、伴走型相談支援事業費81万円、学童保育施設新築事業費1億2,089万円、自動運転バス導入調査事業費20万円、土地改良施設維持管理適正化（防災減災機能等強化事業）事業費2,677万1千円等です。	○	○	○	○	○	○
②	令和5年度土地取得事業特別会計予算32万円6千円（前年度同額）が計上されました。	○	○	○	○	○	○
③	令和5年度国民健康保険事業特別会計予算1億7,176万7千円（前年度比2.2%減）が計上されました。	○	○	○	○	○	○
④	令和5年度簡易水道事業特別会計予算5,988万円（前年度比24.8%減）が計上されました。前年度は公営企業会計への移行に伴う費用を要したため、前年度に比べ増額となっています。	○	○	○	○	○	○
⑤	令和5年度後期高齢者医療事業特別会計予算6,836万円（前年度比10.1%増）が計上されました。	○	○	○	○	○	○
⑥ 令和4年 専決第12号 令和5年 専決第1号	令和4年度一般会計補正予算（第8号）……増額補正485万円 出産・子育て応援ギフト及び貨物自動車運送事業支援金の予算措置により、令和4年度予算総額は19億8,749万3千円となりました。 令和4年度一般会計補正予算（第9号）……増額補正1,690万円 除雪費を増額したことにより、令和4年度予算総額は20億439万3千円となりました。	○	○	○	○	○	○
⑦	令和4年度一般会計補正予算（第10号）……増額補正2,531万9千円 ふなはしこども園防犯カメラ設置工事費174万9千円、対象年齢拡大に伴う、こども医療費システム改修費66万円、その他各事業費の確定に伴う補正予算。 令和4年度予算の総額は20億2,971万2千円となりました。	○	○	○	○	○	○
⑧	令和4年度簡易水道事業特別会計補正予算（第4号）……増額補正433万4千円 佛生寺地内給水管布設事業費245万2千円等の増額補正が計上されました。 令和4年度予算の総額は1億194万1千円となりました。	○	○	○	○	○	○
⑨	個人情報保護法改正に伴い、舟橋村個人情報保護条例を廃止し、新たに 舟橋村個人情報保護法施行条例 を制定しました。	○	○	○	○	○	○
⑩	マイナンバーカード提示により印鑑登録証明書の交付申請を可能とするため、 舟橋村印鑑条例の一部 を改正しました。	○	○	○	○	○	○
⑪	社会教育委員、スポーツ推進委員の報酬等について明記するため、 舟橋村各種委員会委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部 を改正しました。	○	○	○	○	○	○
⑫	対象年齢を満18歳に達した日以後の年度末とするため、 舟橋村こども医療費助成に関する条例の一部 を改正しました。	○	○	○	○	○	○
⑬	出産育児一時金を現行の42万円から50万円に引き上げるため、 舟橋村国民健康保険条例の一部 を改正しました。	○	○	○	○	○	○
⑭	宅地造成に伴い、新たに「 東芦原西部団地8号線 」、「 東芦原西部団地9号線 」を村道認定しました。	○	○	○	○	○	○
陳情 第1号 ※	「選択的夫婦別姓についての議論の推進を求める」意見書を国に提出することを要望する陳情については 不採択 としました。	○	×	×	×	○	○
議員提出 議案第1号	個人情報保護法改正に伴い、地方公共団体は法の適用を受けますが、議会は適用外となるため、新たに「 舟橋村議会の個人情報の保護に関する条例 」を制定しました。						
議員提出 議案第2号	議員の成り手不足が課題となっている現状において、議員活動と家庭生活の両立支援として、議会欠席理由に、育児・看護・介護・配偶者の出産補助等を追加するため、 舟橋村議会会議規則の一部 を改正しました。						

※陳情第1号 「選択的夫婦別姓についての議論の推進を求める」意見書を国に提出することを要望する陳情については、賛成と反対が同数となりました。地方自治法第116条第1項の規定により、議長裁決の結果、本陳情は不採択となりました。

「議会だより」が新しく変わります！

「議会だより」は今回で40号となります。「議会だより」は村民の皆さまに、議会での質問や議論について広く知って頂く目的で発行してまいりました。40号を記念して「議会だより」を今まで以上にもっと読んでいただけるよう6つの変更をしました。慣れない部分もあるかと思いますが、これからもよろしくお願い致します。

議会だよりをもっと充実させる6つの変更



1、もっと読みたくなるタイトルにする為、**タイトルを公募**します。

タイトルを公募で選考します。応募は上記または裏表紙のQRコードからお願いいたします。

2、もっと開きたくなる表紙にする為、**表紙のデザインを変更**します。

各号の情報が見つけやすいよう、レイアウトを固定し、シンプルなデザインとしました。

3、もっと数字や英字を見やすくする為、**横書きに統一**します。

混在していた縦書きと横書きを、大きな数字や英字が読みやすいよう横書きに統一しました。

4、もっと読みやすくする為、**横書きに適した開き方に変更**します。

横書きのレイアウトに合わせて、右開きを左開きに変更しました。

5、もっと読者の意見を大切にする為、**アンケートを毎回実施**します。

多くの村民の意見を聞くため、議会だよりモニターをアンケートに置き換えます。

6、もっと私達を知ってもらう為、**議員コラムのコーナー**を作ります。

各回毎に一人の議員が担当して1ページを作成します。



ご存知ですか? 議会のネット中継
舟橋村議会では、議場で行われる本会議をリアルタイム配信しています。過去の中継も録画配信しています。

舟橋村インターネット議会配信 **検索**

スマートフォンのここから!

自治功労者表彰

2月17日(金)、全国町村議会議長会表彰伝達式が市町村会館で行われました。長年の議員活動を称え、森弘秋議員が全国町村議会議長会から自治功労者表彰を受賞しました。



議会広報 特別委員会

委員長 古川 元規 | 委員 田村 馨
副委員長 前原 英石 | 委員 小杉 知弘

あとがき

令和5年度の入学式、小学校は4月7日、中学校は4月10日に挙行されました。入学式と言えば、満開の桜と言ったイメージですが、今年の桜の開花日は3月22日と平年より10日以上も早く、満開時期も3月27日と予想されていました。京坪川の桜も同様で、入学式は満開の桜・春爛漫とまでは言えませんでした。真新しく少し大きめの制服を着た子ども達は今年も元気に新たな一歩を踏み出しました。この子ども達が安全で安心して舟橋村の環境の中で成長し学校生活をおくっていけるよう、地域ぐるみで見守って行きたいものです。

(前原 記)



議会・議会だよりについて、みなさまのご意見・ご感想をお寄せください。

議会だより40号



読者アンケート
フォーム